



## 旧約聖書の中のイエス by アミール・ツアルファティ

<https://youtu.be/A5a9NjpA7A0>

.....

では、「旧約聖書の中のイエス」について、お話ししましょう。

私が、このテーマについて教えたいと思ったのは、私の中で気になっていることがあったからです。世界中を訪れていると、おもに異邦人の方々ですが、他にもない旧約聖書について、知識や理解がほとんどないクリスチャンが本当に多いのです。中には、新約聖書と詩篇だけのものを持ち歩いている人もいます。それを見た時、私は衝撃を受けました。それが半額だったらいいのですが。聖書の半分ですからね。ともかく、私には衝撃でした。と言っても、誤解しないでくださいね。私は、新約聖書よりも旧約聖書の方が大事だ、と言っているのではありません。私は、旧約聖書も新約聖書と同じくらい大事だ、と言っているのです。新約聖書が新約であるのは、旧約があるからです。私たちが理解しておくべきなのは、キリストご自身が、ご自分がメシアであると人々に説明し、証明する機会があった時、一度も新約聖書を使わなかったという事です。実際、主はただの一度も、新約聖書から説教されたことはありません。一度たりとも、引用されたこともありません。パウロも、新約聖書を引用したことは一度もありません。ペテロも、新約聖書を引用したことは一度もありません。ヨハネは、新約聖書について触れたことは一度もありません。彼らが、それを書いていたからです。ですから、1世紀の時代に、神の御言葉、聖書について語る時、それは何かといえば？旧約聖書でした。だとすれば、聖書の中でそれほど重要な部分を、どうして私たちが無視できるのでしょうか？イエスご自身もたびたび引用されたのです。主が、サタンに誘惑された時も、覚えていらっしゃるでしょうか？ それからルカ福音書に至るまで。

後でお話しますが、主が、エマオを歩かれた場面です。事実、私が気付いたのは、多くの人が旧約聖書に関わる事を恐れます。彼らは、旧約聖書は、神の厳しい裁きの描写ばかりだと考えます。あるいは、新約聖書はクリスチャンの為のもので、旧約聖書はユダヤ教徒の為のものだ、と考えている人もいます。でもっておきます。イエスは、クリスチャンではありませんでした。ごめんなさい(笑)。しいて言えば、イエスはユダヤ人でした。良いですか？もう1つっておきますと、神はユダヤ教ではありません。神は、天と地の創造主です。だから、私たちは物事を箱の中に納める必要はないのです。どうか、理解しておいてください。信者にとっての、新約聖書とイエスご自身のメシア性、イエスの權威を理解するためには、旧約聖書を学び、理解するのは、非常に重要です。多くのクリスチャンが、2つの罠のうちのいずれかに陥っています。一方はイスラエルを偶像化、もう一方は、神がイスラエルを教会に置き換えたと考え、聖書の中のイスラエルの役割を完全に排除します。どちらも、聖書を理解していない無知から来ているのは明らかです。私がよく聞かれる質問は、「何故、異邦人のクリスチャンたちが、旧約聖書を知らなければならないのか？」というものです。もし、旧約聖書がユダヤ人だけのものだとしたら、皆さんにお知らせがあります。第一ペテロ 2:9 をお読みします。大きな声でお読みしたいと思います。

- 9 しかし、あなたがた（異邦人）は、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためです。
- 10 あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、今はあわれみを受けた者です。

（第一ペテロ 2:9～10）

皆さんは好むと好まざるにかかわらず、イスラエルのオリーブの木に接ぎ木されたのです。そして、皆さんは、その根の豊かな養分を共に受けているのです。かつては、野生種のオリーブであった皆さんが、栽培されたオリーブの木に接ぎ木されたのです。そこから逃れることは出来ません。今では皆さんには「選ばれた民」という肩書があるのです。しかも、元々神の民ではなかった皆さんが、今は、神の民であるだけでなく、「王である祭司」です。もし、皆さんが祭司であるなら、御言葉を知っておいた方が良いでしょう。祭司とは何かを理解しておいた方が良いでしょう。そしてそのためには、ずっと初めまで戻って、見なければなりません。「旧約聖書の中のイエス」を教える一番の理由は、私自身が新約聖書を一切読まずに、主を知ったからです。ご存知でしたか？私は、新約聖書を持っていませんでした。あったのは、旧約聖書だけです。殆ど全てのイスラエル人の家庭には、旧約聖書があります。だから、私も預言の書は読んでいました。私にキリストについて話した人は、新約聖書は一切使いませんでした。彼らは、旧約聖書を使ったのです。あそこでもし、私が新約聖書を耳にしていたなら、私は初めの時点で、その場で拒絶していたことでしょう。私たちユダヤ人にとって、新約聖書とは、新しい宗教を始める為に、非ユダヤ人に向けて、非ユダヤ人によって書かれたものなのです。だから、思い出してみると、私は旧約聖書を読み、驚くべき預言、特にイザヤの預言を読んでいて、イザヤ 53 章でつまづいたのです。ワケが分かりませんでした。私は決断を迫られました。そして私は決断し、その結果、私は家から追い出されました。私には、行く所なんてどこにもありませんでした。でも、私には、それほど旧約聖書がリアルだったのです。イエスがメシアだと、認めずにはいられなかったのです。その決断に、どんな犠牲が伴うかなど、私には分かりませんでした。数時間後に分かりましたが。ただ1つ、私に言えるのは、イエスがメシアである、という事です。そして、旧約聖書を通して、全体にイエスが出て来るということです。私が初めて新約聖書を読んだのは、軍に所属していた時です。装甲部隊での任務中に、戦車の中に忍び込んで、ポケットに入れてあった小さな新約聖書を取り出して、小さな懐中電灯で照らしながら読みました。それはもう、驚きました。これは、誰かをユダヤ教でないものに導くための、非ユダヤ人による非ユダヤ的な話ではなく、それは、全てが、私が知っている旧約聖書の引用だったのです。それは、イスラエルの失われた羊のために来られた、メシアについてでした。それから、バプテスト派ではないヨハネ(笑)。

今朝は、ルカの福音書 24 章から始めたいと思います。ルカ 24 章は、偉大なる福音を素晴らしい形で終えています。これは、イエスが死からよみがえった直後の話です。私たちの誰もが知る通り、日曜日の朝の事。女たちが墓を見に行きましたが、墓は空っぽでした。そして、御使いが彼女たちの前に現れて、言いましたね。

「彼はここにはおられません。彼が言われた通り、よみがえられたのです。」

それからペテロが来て、他の人たちも来て、空っぽの墓を見ました。それが13節です。

- 13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから11 km余り離れたエマオと言う村に行く途中であった。
- 14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。
- 15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。
- 16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。
- 17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。

(ルカ 24:13~17)

想像出来ますか？彼らは、キリストのよみがえりについて話し合いながら、暗い顔をしていたのです。私の知っているクリスチャンの中にも、主の喜びが全然なくて、いつも落ち込んで、暗く、抑圧されている人がどれぐらいいるか。中には、彼らの中で、主が未だに十字架にかかったままになっていて、主は、もう、そこにはおられないという事を忘れています。主は、よみがえられたのです。

あの日、多くの人が十字架にかかっています。

あの月、あの年、多くの人が十字架にかかったのです。

当時、十字架にかかることは、何も珍しいことではありませんでしたから。何かローマの気に入らない事をすれば、あなたもその一員です。ただ、2人のローマ兵が墓の側に立つ栄誉に与った人は、誰一人いません。何もおかしいことが起こらないように、見張るために。すごくないですか？イエスのよみがえりについて、弟子たち自身よりも、ローマ兵の方が、信仰があったのです(笑)。弟子たちは、彼がそこにおられない事が信じられず、ローマは、2人の兵士をそこに立たせて、墓を封印し、驚くことが何も起きないようにしました。そこにいる間に、武装した兵士たちに護衛された死人は、誰もいません。日曜の朝一番に、石が転がされてあり、兵士たちはおらず、女たちは中に入ると、彼がいなくなっていました。そこに彼はおらず、2人の御使いが現れました。

ここで歩いていた二人の弟子たちは、そのことについて話し合っていたのです。彼らが実際話し合っていたのは、何よりも素晴らしいこと、主のよみがえりです。それなのに、彼らは暗い顔をしていたのです。彼らは、よみがえりの意味を理解していなかったからです。イエスの力は、よみがえりの中に最大限にあるのだという事を、彼らは理解していなかったのです。よみがえるためには、まず死ななければなりません。まずは死なない限り、死からよみがえることは出来ないのです。そして、このエマオへの道中、イエスは彼らに聞かれました。「どうして、そんなに暗い顔をしているのか？」すると、

- 18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」

(ルカ 24:18)

という事はつまり、それがどれほどすごかったかという事を物語っています。神は、これら全ての事がユダヤの大きな祭日に起こるようにされたのです。それで、そこにいた全ての人が、そこで何かが起こったと知り、理解していたのです。その出来事の威力は、物凄かったのです。なのに、  
「あなただけが知らなかったのですか？」

- 19 イエスが、「どんな事ですか。」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。
- 20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。
- 21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。  
(ルカ 24:19~21a)

分かりますか？ だから、彼らは暗い顔をしていたのです。

「私たちは、望みをかけていた。」

彼こそ、イスラエルを贖ってくださるはずだ、と。

「望みをかけていた。」

過去形です。彼らの希望は消えてしまったのです。彼ではなかった。彼は贖ってくれなかった。私たちはまだ、ローマの支配下にある。分かりますか？ これが彼らの持っていた、間違っただメシア観です。だから、彼らは暗い顔をしていたのです。そして、彼らは言いました。

- 21 …望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になりますが、
- 22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、
- 23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。
- 24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、と言うのです。」

(ルカ 24:21b~24)

何と彼らは、イエスの死についてだけでなく、彼のよみがえりについても語っているのです。イエスがいない！イエスは生きておられる！そして、彼らは悲しんでいました。

- 25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。
- 26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」
- 27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、**聖書全体**の中で、ご自分について

て書いてある事がらを彼らに説き明かされた。

(ルカ 24:25~27)

当時の聖書とは、何でしたか？ 旧約聖書です。ご自身についてのことを、聖書全体にわたって、彼らに説明された。その内容については、聖書には一切書かれていません。彼は何を言われたのか？私は、その時の説教の記述が欲しいですよ。これは何よりも最も素晴らしい説教ですよ。彼は道中、全聖書を通して、…絶対に、創世記 1:1 から最後まで全てのはずです。ご自分について書いてある事柄を、説き明かされたのです。

「ほら、これもわたした。これもわたした。これもわたし。これもわたし。彼は、こう言った、彼は、ああ言った。」

面白いことに、彼らが一旦理解すると、イエスご自身が、こう言われたのです。

44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず

全部成就するということでした。」

(ルカ 24:44)

私と一緒に、大きな声ではっきりと試みてみてください。「必ず全部成就する。」

「わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就する。」

イエスは来て、その一部や半分だけを成就されたものではありません。彼は、半分だけメシアだったのでなければ、恐らくメシアとか、そうかも知れないとか、可能性があるとか、たぶんメシア、ではなく、彼がメシアです。また、全てが成就されなければならないのです。ナザレからベツレヘムまで連れ戻すのが難しいなら、皇帝アウグストゥスに、人口調査を命じさせよう。そうすれば、ヨセフは、はるばるベツレヘムまでやって来る。そうしてイエスは生まれ、預言の言葉が成就されるのだ。

2 ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。

(ミカ 5:2)

ベツレヘム・エフラテよ。わたしは、わたしの子をそこで誕生させる。

「全て」が、成就しなければならない。一部でもなく、いくつかでもなく。イエスは言われたのです。

モーセの律法だけでなく、詩篇も、預言も、

「わたしに関する事全てだ」と。

わたしがイスラエルの希望、わたしがイスラエルのメシアだ。それは書かれ、言い伝えられ、いたるところにあり、あなたがたの聖書全体にある。

そこで、モーセの律法の中、預言の中、詩篇の中のイエスを、皆さんに垣間見ていただこうと思います。

モーセの律法の中では、とても興味深いことに、モーセ五書はヨハネ 5 章でイエスご自身が語っておられます。

46 **もしあなたがたがモーセの書を信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。**

(ヨハネ 5:46)

モーセを信じていれば、わたしを信じていなくても大丈夫だ、などと思ってはならない。モーセが語っていたのは、わたしのことだ。

次に、聖書の中で、私がとても興味深いと思った事を、皆さんにいくつかご覧いただきます。

まず、第一に、創世記 1:1~19 で、神は世界を創られました。  
神が、世の創造を初められた時の事を、聖書はこう告げています。

3 **神は仰せられた。「光があれ。」**

(創世記 1:3a)

もう一度、創世記 1 章を見てください。神が「光があれ。」と言われた記述は、3 節にあります。それは、いつでしたか？——それは、第一日目です。

太陽が創られたのは、いつでしたか？

なぜなら、あなたも私も、この世の光の源は太陽だと考えますが、太陽は 4 日目に創られたのです。では、太陽が 4 日目に創られたのに、なぜ神は、第一日目に「光があれ。」と言われたのでしょうか？文字通り、神は、光の源、本物であり、究極の光の源を輝かせたのです。

「子よ。さあ、出なさい。あなたの光を輝かせなさい。」

どうして私は、確信をもってそれが言えるのか？

1 つに、私は知っているからです。

2 つに、詩篇 72:17 を読めば…時々、英語の訳を読んでいる皆さんが、かわいそうになりますよ。原文から、かなりの部分を取り除いてしまっていますから。名前や言葉の意味を、かなり抜き取ってしまっています。詩篇 72:17 は、皆さんの聖書には次のように書いてあるでしょう。

17 **彼の名はとこしえに続き、その名は日の照るかぎり、いや増し、…**

(詩篇 72:17a)

原語であるヘブル語の本文では、どう書いてあるかと言うと、

17 **彼の名はとこしえに続き、その名は日の照る前から**、いや増し、人々は彼によって祝福され、すべての国々は彼をほめたたえますように。

(詩篇 72:17)

彼が、世の光。太陽が出来る前に、です。

(ヘブル語で朗読)

「太陽以前に、メシアはおられた。」聖書は、そう告げているのです。私の聖書は、そう告げています。残念ながら、皆さんの聖書にはそう書かれていませんが。ですから、どうか訂正しておいてください。(笑) これを知っておくのは、とても重要です。これによって、イエスが、

「わたしは、世の光です。」と言われたわけが、理解できます。

彼は、何故そう言われたと思いますか？

彼は、第一日目からそこにおられたのです。被造物の一部ではなく？——創造主の一部なのです。

「さあ、出て、あなたの光を輝かせなさい。」

御父はそう言われたのです。興味深いですね。これが詩篇 72:17。どうか訂正しておいてくださいね。

そして、創世記 3:8 です。ここでは私たちも知っているとおおり、神がそこにおられ、アダムとエバがいて、2本の木があった。これらの木からは取って食べてはならず、それらは知識の木と…いのちの木でした。面白いと思いませんか？どうして知識と、いのちなのか？それは、神がその御言葉の中で、言われたのです。

6 **わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。**

(ヨハネ 14:6)

そして、彼の御言葉の中で、神は言われました。

7 **主を恐れることは（知恵と）知識の初めである。**

(箴言 1:7)

ですから、あなたがもし、知識の木の実や、いのちの木の実を食べる必要があるなら、つまりそれは、彼では十分ではない、ということの意味します。これ以上に神を傷つけることはありません。

「あなたが全てではない。」

「あなたは、全てを備えてはいない。」

「私には、他のものも必要です。」

とても興味深いことに、彼らが実を食べて、罪悪感と恥を感じた後、主が園を歩いておられた、と8節にはあります。これがとても興味深いのです。ユダヤ人は何年もの間、ヘブル語を話していました。し

かし、紀元前1世紀から西暦1世紀、それ以降、ヘブル語は日常で話す言葉ではなくなりました。それには、もっと典礼的な理由と目的があって、そのため、ラビが生徒たちに語り、トーラーや預言者の事を説き明かすとき、ラビはタルグームと呼ばれる彼らの言葉、現代のアラム語やギリシャ語に訳したものを使ったのです。また、1世紀のタルグーム・オンケロスでは、創世記3:8にこう書かれています。

「**アダムとエバは、主の『メムラ』が園を歩いているのを聞いた。**」

ユダヤの百科事典によれば、

「**『メムラ』とは、『ことば』を意味する。**」

神のことば。つまり彼らは、「神のことば」が園を歩いておられるのを聞いたのです。

「神のことば」とは誰ですか？彼について、ヨハネはこう語りました。

## 1 初めに、ことばがあった。

(ヨハネ 1:1)

イエスご自身です。

想像出来ますか？キリストご自身が歩いておられた。被造物の役目として、ではなく、創造主として、です。イエスこそ、彼らが見ていた方、歩いておられた方、イエスこそが、彼らが恐れ、自分たちを恥じた方なのです。

それから創世記3:15で、その罪に対する罰が見られ、そこには、「女の子孫（たね）」とあります。大変失礼ながら言わせてもらえば、女性にたねはありません。卵です。ですね？ではなぜ、ここでは「女の子孫（たね）」(The Seed of the Woman)なのでしょう？唯一、歴史上で、女にたねがあった事例は、それは人の働きによらず、人間のいのちを生み出した、それは明らかに神によるのであって、イエスご自身です。

つまり、全歴史上で、「女の子孫（たね）」に当てはまるのは、唯一、イエスだけです。そして、彼こそが、そのかかとで蛇の頭を踏み砕かれる方です。彼こそが、サタンを打ち負かすことの出来るお方です。彼、ただお一人です。

興味深いのが創世記4章。見てください。まだ始まったばかりです。創世記1章、2章、3章、4章。そして、ここに初めて、罪と羊が同じ章に出て来ます。罪が贖われる前に、小羊がほふられたとは、面白くないですか？この2つは、初めから一緒だったのです。

創世記4:2で、アベルはささげ物に羊を与え、そして、カインの心、カインの意向を、神は罪と見られました。このように、これら2つの言葉が一緒に登場します。そして、この2つの言葉が、驚く形で再び登場します。創世記22章、イサクの献納です。



イサクがモリヤの山に連れて来られた時、彼は父親であるアブラハムに聞きました。

7 …「火とたきぎはありますか。全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」

8 アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」

…

(創世記 22:7~8)

しかし、面白いのが、12節で神がご介入されました。彼は、アブラハムがイサクを殺す前に止め、言われたのです。

12 「…今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまないでわたしにささげた。」

(創世記 22:12)

面白いと思いませんか？「ひとり子をささげる」という表現がこの章に2回も出て来るのです。これは、イエスがヨルダン川に行かれた時に聞こえたのと、全く同じです。

空が開き、神がはっきりとした声で言われました。

22 「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

(ルカ 3:22)

「わたしのひとり子」同じ言葉です。

とても興味深いことに、この章のこの箇所は、神が、ご自分の御子に対してされようとしていることの予型です。そのために、バプテスト派ではなく、ユダヤ人のヨハネは、人々がヨルダン川に来るのを見て、ヨハネ 1:29、ヨルダン川でイエスが向かって来るのを見て、言ったのです。

29 …「見よ。世の罪を取り除く神の**小羊**。」

(ヨハネ 1:29)

またしても、小羊と罪が一緒に出て来ました。彼は、あらゆる所に出て来ます。旧約聖書を通して、至るところに彼は出て来ます。そして、祭司の家の息子であるヨハネには、それが見えたのです。彼は旧約聖書の教え、トーラーの教えの中で育ちました。贖いがあるはずだという事が、彼には見えたのです。それも、イスラエル人の為だけでなく、祭司やレビ族の為だけでもなく、全世界の為。これは、ユダヤ人には知られていない概念です。贖いの日に、どのユダヤ人も世の罪のためには祈っていません。全ては、イスラエル国家のためです。ここで、ヨハネ、『主の道をまっすぐにせよ』と荒野で叫んでいる者の声(ヨハネ 1:23、イザヤ 40:3)には、イスラエルより、はるか先が見えていたのです。彼には、皆さん

全員が見えていたのです。そして彼には、近づいて来るそのお方は、ただの人ではないことも見えていました。

彼は、神の小羊。そして彼が、世の罪を取り除く。

覆うのでもなく、隠すのでもなく、全世界の罪を、取り除くのです。

アーメン？

このように、イエスはモーセの書全体に見られました。創世記 49 章のヤコブの祝福でも、先日お話したシロは、彼がユダ部族から出て、彼が統治する。至る所に見られます。

そして、詩篇に行くと、150 の全詩篇の中に、16 のメシア詩篇が見られます。詩篇にある詩の 10% 以上です。実際、メシア詩篇はダビデの詩であれ、アサフの詩であれ、コラの子であれ、彼らが聖霊によって動かされ、キリストそのものについて語ったのです。自分では、誰の事を言っているのかも知らずに、です。彼らは、キリストよりもはるか以前に生きていましたから。一つ、例を挙げてみましょう。

一つ、小さな例です。詩篇 22 篇は、実際の十字架について語った驚くべき詩です。ダビデが全ての詩篇を書いたのではありませんが、これは、彼によるものです。詩篇 22:1 には、こうあります。

**指揮者のために。「暁の雌鹿」の調べに合わせて。ダビデの賛歌。**

…ダビデ王がこの詩を書きました。皆さんも読んでみると分かりますが、これは驚くべき詩で、11 節まで行くと…10 節から読んでみましょう。

10 生まれる前から、私はあなたに、ゆだねられました。母の胎内にいた時から、あなたは私の神です。  
(詩篇 22:10)

分かりますか？彼は、すでに神に触れられ、母の胎内で形造られたのです。それから彼は言います。

11 …苦しみが近づいており、助ける者がいないのです。

12 数多い雄牛が、私を取り囲み、バシヤンの強いものが、私を囲みました。

13 彼らは私に向かって、その口を開きました。引き裂き、ほえたける獅子のように。

14 私は、水のように注ぎ出され、私の骨々はみな、はずれました。私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。

15 私の力は、土器のかげらのように、かわききり、私の舌は、上あごにくっついていて、あなたは私を死のちりの上に置かれます。

16 犬どもが私を取り囲み、悪者どもの群れが、私を取り巻き、  
「わたしの手と足を刺し貫いた。」

(詩篇 22:11~16 新改訳第三版、16 節「」内は口語訳)

ダビデは刺し貫かれましたか？——いいえ。

ダビデは、メシアについて語っているのです。理解することなく、知らずに。彼は、ただ神の御霊に聞き従って語り、書いているのです。そして、ダビデから 3000 年後の私たちには、これを読んで、彼が誰について語っているのかを、はっきりと分かります。

16 …「わたしの手と足を刺し貫いた。」

17 私は、私の骨を、みな数えることができます。彼らは私をながめ、私を見ています。

18 彼らは私の着物を互いに分け合い、私の一つの着物を、くじ引きにします。

19 主よ。あなたは、遠く離れないでください。

(詩篇 22:16~19 新改訳第三版、16 節「」内は口語訳)

キリストの十字架が、詩篇の中に何とも鮮明に描かれています。もし、これで足りないなら、イエスは、預言の書の至るところに見られます。

事実、預言の書には、

「神からの分離」について書かれています。

「約束された解決策」

「新約聖書の約束」

「キリストの奇跡の降誕」

「拒絶された初臨」

「彼の苦しみ」

「彼の犠牲」さらには、

「彼の勝利の再臨」に至るまで、

全てが預言の書に書かれています。

その中でも、私が最も驚いたのは、先ほどもお話しましたが、イザヤ書 53 章です。そこには、こう書かれています。

3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

(イザヤ書 53:3)

すごいですね。それから、こうあります。

5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、

私たちのすべての咎を彼に負わせた。

- 7 彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く“羊”のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの罪のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。
- 9 彼の墓は悪者どもとともに設けられ、彼は富む者とともに葬られた。彼は“暴虐を行わず”、その口に“欺きはなかった”が。

(イザヤ書 53:5~9 “” は訳者が付加)

イザヤが言います。

「罪のない人が、私たち全員のために殺された。」

私たち全員がさまよって、主は、私たちの咎を彼に負わせられたのです。

私たちの罪、私たちのそむきを、です。驚きです。

では、ユダヤ人にはどのようにして、新約聖書があることを伝えますか？皆さんは、新約聖書が、旧約の中で預言されていたことをご存知ですか？預言者エレミヤが、31章31節に書いている事をご存知ですか？ここでもまた、皆さんの訳がとても気の毒ですが、エレミヤは、31節で次のように言っています。

31 見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、…皆さんの訳では「新しい契約」となっているでしょうが、ヘブル語では、

「新約聖書」…を結ぶ。

32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——主の御告げ——

33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——主の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

(エレミヤ書 31:31~33)

それはもう、文字に書かれた律法ではなく、霊となる。文字の律法は殺し、霊はいのちを与えます。もはや、モーセの律法が基本ではなくなり、神の恵みが基本になるのです。神はそれを、イスラエルの人々に約束されたのです。旧約の預言者を通して、新約聖書を約束されました。イエスはそこら中に見られます。皆さんが理解できるように、ほんの少し垣間見せましたが、旧約聖書の中にある、メシアについて書かれている箇所を全て教えるなら、何週間もかかるでしょう。

また、イエスは、ただそこに見られただけでなく、イスラエルの祭りの中にも、そこら中に見られます。私たちは、毎年7つの祭りを祝いますが、それが全て、彼についての事だという事実について、考えも

しません。聖書には、コロサイ人の手紙 2:16~17 にこうあります。

16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、**祭り**や新月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。

17 これらは、次に来るものの**影**であって、**本体はキリスト**にあるのです。

(コロサイ 2:16~17)

だから、これらの事を祝うのは良いのです。ただ、それらは、キリストの影であって、本体がそこにおられる。それを見逃してはいけません。

レビ記 23 章の中には、7 つの祭りが出て来ます。

- ① 過ぎ越しの祭り
- ② 種なしパンの祭り
- ③ 初穂の祭り
- ④ 7 週の祭り
- ⑤ ラツパの祭り
- ⑥ 贖罪日
- ⑦ 仮庵の祭り

では、それらはどこでキリストによって成就されたか？こちらをご覧ください。

過ぎ越しの祭り——キリストの受難、傷のない小羊を殺します。覚えていますか？聖書には、パウロが、「キリストは確かに私たちの過越しの小羊だ」（第一コリント 5:7 参照）と書いています。これはもう、過去に成就されています。

種なしパンの祭りはどうでしょうか？——罪のない主の人生を表しています。明らかに、彼がここにおられた時に、成就しました。

では、初穂の祭りはどうでしょうか？——聖書には「キリストは、眠った者の初穂」とあります。彼は、初穂です。主のよみがえりは、初穂の祭りの成就でした。過ぎ越しの祭りの後の最初の日曜、神殿に羊を持って来ます。同様にキリストも、過ぎ越しの後、眠った者の初穂となりました。したがって、これも成就しています。

そして、過ぎ越しの祭りの後、ピッタリ 50 日後はペンテコステ。「ペンタ」とは、50 の意味です。7 週の祭り、つまり 49 日の後 50 日目に、主から律法が与えられた事を祝います。シナイ山での事を、覚えているでしょうか？旧約聖書を読めば分かりますが、モーセが山から下りて来た時、板を手にしていましたが、ユダヤ人たちは既に、金の子牛に夢中でした。その日、3000 人が死にました（出エジプト記 32:28 参照）。そして、面白いことに、使徒の働きで聖霊が下った時、その日、3000 人が教会に加えられました

(使徒の働き 2:41 参照)。このように、完璧な成就です。これも、見事な形で成就されました。

したがって、これら 4 つの春の祭りは、2000 年前に全て成就されています。

では、最後の 3 つ、秋の祭りはどうでしょうか？

ラッパの祭りは、皆が集まるべき日について語っています。そして、私たちはラッパを鳴らします。これは、次のことを理解しない限り、とても奇妙な祭りです。神は、モーセに銀のラッパを 2 つ作るようにと、命じられました (民数記 10:2 参照)。

なぜ銀？

なぜ 2 つ？

なぜラッパなのか？

銀は、貴重ではあるが、完璧ではない。

ラッパは、皆の気を引くためです。

なぜ 2 つか？私は、イスラエルと教会だと思っています。これらは、神が「あなたがたはわたしの証人だ」(使徒の働き 1:8 参照)と言われた 2 つの民です。そして、面白いのは、1948 年以来、イスラエルと教会が、初めて共存しているのです。だから私たちは、現在ラッパの祭りの時代にある、と私は心から信じています。

私たちは、携挙されるのを待っていますが、携挙の後、私たちが主とともに戻って来ると、贖罪日が始まり、イエスの再臨が起こります。イスラエルは嘆き悲しみ、ゼカリヤ書 12:10 によれば、イスラエルは皆救われます。ローマ書 11 章にある通り、物凄い救いの計画です。ですから、贖罪の日は将来起こります。

それから 1000 年間の千年王国。主が私たちと、住まれ (仮庵され) ます。これはユダヤ人にとって最も長く、最も嬉しい祭りです。これも将来起こる事です。

唯一、欠けているのは、もちろん携挙の正確な日時です。ただ、それが近いことは私たちには分かりません。ですね？とても面白いのですが、私のところにある人からメールが来て、

「自分には、携挙の時が 48 時間以内に分かる。」

と、その人は言うのです。

私は、こういったメールが大好きです。だから、そのメールを読みました。それは、とても素晴らしかったです。ただ、間違っていただけで。彼は、本当に説き明かし、シュミータの年や、ヨベルの年など全てを説明して、それから、日を指定してくれました。私、日を知っているんです。皆さんには、お知らせしませんがね。(笑)ともかく、よく考えてみてください。彼は、日を知っているというのです。イエスは、御子でさえ、その日、その時を知らないと言われたのに (マタイ 24:36 参照)。だから、間違った仮説を基にしているのは明らかです。人間には、その日その時は分かりません。

しかし、聖書の至る所に、イエスが様々な姿形で現れたのが分かりました。これは、「神の顕現」と呼ばれます。「神の顕現」とは、外見や神ご自身の啓示の事で、「神/Theos」が「ご自身を明らかにされる/Phaneia」で、「神の顕現/Theophany」です。そこで、私たちが見て来た通り、彼は、人の子として、主の御使いとして、メルキゼデクと呼ばれる王（創世記 14:18 参照）として、ヤコブと格闘した方として（創世記 32:24～32 参照）、様々な姿かたちをして現れました。

ダニエル書 7:13～14 にはこうあります。

- 13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲に乗って来られ、年を経た方のもとに進み、その前に導かれた。
- 14 この方に、主権と光栄と国が与えられ、諸民、諸国、諸国語の者たちがことごとく、彼に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

（ダニエル書 7:13～14）

この、人の子とは、誰ですか？ マタイ 20:24、それからマルコ 10 章、ヨハネ 3 章、これら全ての箇所で、イエスご自身が自分の事を「人の子」と言われていました。ダニエルが見た、人の子というのは、イエスご自身です。

では、あの謎の王はどうでしょうか？ 創世記 14 章、アブラムが王を追って、その甥ロトを救った直後、彼はシャレムの王メルキゼデク（私の王、義の王）の前に現れます。興味深いのが、アブラムのしたこと。彼は十分の一を納めました。そのことから、明らかにメルキゼデクの方がアブラムよりも偉大であったことが分かります。事実彼は、神性の人だったのです。明らかに、誰も神ご自身以外に、十分の一献金を納めたりはしませんから。ですから、ヘブル人への手紙 7:3 で、ペテロがその説明をしているのです。メルキゼデクは、イエスご自身だと。ですから、そこにも書いてあるのが分かりました。

次に、ヤコブと格闘した名もなき人。そのため、ヤコブはイスラエルという名が与えられました。創世記 32 章です。見ての通り、ヤコブは格闘した場所をペヌエル、「神の顔」と名づけました。つまりヤコブは、顔と顔を合わせて神を見た、と信じたのです。その名もなき人というのは、イエスご自身でした。

それで足りなければ、ギデオンの前に現れた、主の御使い。

- 23 すると、主はギデオンに仰せられた。「安心しなさい。恐れるな。あなたは死なない。」
- 24 そこで、ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。…

（士師記 6:23～24）

彼は、主に語っています。彼の前におられる主に。これは、誰ですか？

では、イザヤ書 9 章はどうでしょう？クリスマスの時期になると、私たちが皆読む箇所です。

- 6 **ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は、「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**

(イザヤ書 9:6)

預言者は、男の子について語っていますが、彼の言っていることを見てください。この、父でもあり、力ある神でもある男の子とは、一体誰ですか？敬虔なユダヤ人、特に、イザヤのような預言者は、絶対に人間を「力ある神」と呼ぶことはありません。

このように、イエスはそこら中に見られます。もし、これでも足りなければ、ゼカリヤ書 12:10 で、キリストの再臨が書かれてあり、その時イスラエルは嘆き、激しく泣く、とあります。イエスから 500 年後に完成したバビロニアン・タルムードには、ゼカリヤ書 12:10 についての解説が記載されています。ゼカリヤ書 12:10 の内容は、次の通りです。

- 10 …彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。

(ゼカリヤ書 12:10)

そして、ユダヤ教・ラビ指導者訳のタルグームには、こうあるのです。

「彼らが、激しく泣く原因は何なのか？」

その答えは？この解説者がよく言い当てています。彼によれば、

「その原因は、メシア、ヨセフの子の殺害だ。」

これが、その質問に対する、ユダヤ教ラビ指導者の答えです。それは、至るところに見られます。彼が、至るところに見られるのです。

では、私たちが何千年も前に書かれた、これらの古い御言葉に寄りかからなければならない理由とは、何でしょう？ローマ書 15:4 には、こうあります。

- 4 **昔書かれたものは、すべて私たちに教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。**

(ローマ書 15:4)

だからパウロは、ローマで家に拘留されていた時、そこに座って、全ての指導者たちを招いたのです。彼は、彼らに対して思いがあったのです。彼は言いました。

「ご覧ください。私は皆さん全員をお招きしました。皆さん、お願いします。どうか聞いてください。…」



20 このようなわけで、私は、あなたがたに会ってお話ししようと思い、お招きしました。私はイスラエルの望みのためにこの鎖につながれているのです。

(使徒の働き 28:20)

イエスは、あなたの真の希望ですか？彼は、あなたの人生の光ですか？ 今、私たちの間に住んでおられる彼は、あなたの人生の中で「神のことば」ですか？ ふたりでも3人でも、彼の名において集まる場所には、彼もその中におられるのです。彼は、あなたと共におられますか？ あなたは、彼を知っていますか？ それとも、あなたの中で、彼は未だに十字架にかかったままですか？ だから、あなたはいつも悲しんでいるのですか？

あなたは、彼を知っていますか？

あなたは、彼の顔を知っていますか？

あなたは、彼のご性質を知っていますか？

あなたは、復活の力を知っていますか？

書かれたものは全て、私たちが希望を持つためである、とあなたは知っていますか？

私たちが直面する、あらゆる苦難の中で、私たちが慰めを受けるためである、と。

だから、パウロは言ったのです。

「私は、イスラエルの望みのために、この鎖につながれているのです。」

今日、私が祈り、望むのは、ナザレのイエス、イエシュアが、あなたにとって、ただのクリスマスの小さな赤ん坊ではなく、彼があなたの人生の光であり、彼があなたの人生の希望、あなたの中に毎日おられる「ことば」である事です。あなたが、聖書の至る所に彼を見るように祈ります。皆さんがとても知的なクリスチャンになるには、あなたがユダヤ人に出くわした時、ユダヤ人に出会った時に、彼らに、メシアについて伝えることです。皆さんの仕事は、彼らに妬みを起こさせる事なのですから（ローマ書 11:14 参照）。皆さんは、何を言うべきか、はっきりと分かっています。皆さんは、武器を手に入れたのですから。悲しいことに、あまりにも多くのクリスチャンが、救いの確信を持っていません。だから彼らは、ユダヤ人になりたがるのです。世界中で、どれほどの人がユダヤ人になりたがっているのを、私は見て来たか分かりますか？ 現実には、神が皆さんに「ユダヤ人の妬みを引き起こせ」と言っておられるのであって、彼らに、妬みを引き起こされてはいけません。皆さんは選ばれた民であり、王である祭司、取り分けられた民、接ぎ木されたのです。皆さんは、神の御言葉を知らないければなりません。皆さんは、その権威を与えられ、立場を与えられたのですから。権威と立場です。多く与えられた者は、多くを求められます。皆さん、御言葉を学ばなければなりません。皆さんはそれを知らなくてはなりません。そうすれば、皆さんも伝える事が出来るようになります。それと、それがあなた自身の人生の中で、慰めと希望になりますから。

祈りましょう。

お父様、感謝します。

あなたは私たちに、この素晴らしい御言葉を与えてくださいました。それは、私たちが利口になるためではなく、知者になるためでもなく、これらの御言葉が、私たちに忍耐と希望を与えるためです。お父様、ありがとうございます。あなたは、一人一人の心に、異邦人がユダヤ人の妬みを引き起こすという重荷を置かれました。今日、あなたをお願いします。私たちが伝えたこと、私たちが聞いたことが、不毛の地に落ちる事のないように。何らかの形でそれらが実を結びますように。あなたの御言葉全体、あなたの全ご計画への飢え渴きが与えられますように。お父様、ありがとうございます。あなたは、私たちのために、彼が光を輝かせるよう、世の光を送ってくださいました。主よ、感謝します。私たちは、個人的に彼を知っています。お父様、今日、あなたをお願いします。この中に、救い主として、贖い主として、イスラエルの望みとして、この世の光として、園を歩いておられる「ことば」として、個人的にあなたを知らない人がいるなら、お父様、どうか今日、その心に触れてください。御霊が、その全てを示してくださいますように。そして、人生を変えてください。あなたに感謝し、あなたを賛美します。

そして、これら全てを、イスラエルの聖なる方、王の王、主の主、ユダの獅子、平和の君、神の小羊、インマヌエル、全てに勝る御名、イエシュア、イエスの御名によって祈ります。  
全ての神の民は言います。

アーメン。

アーメン！ありがとうございました。

---

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>